

第 號

幣原外務大臣宛

第六六四號 (極秘)

奉天、昭和六年九月廿日前發

本村理事ノ議ニ依リ、鐵道爆破直後滿鐵側ヨリ修理爲保線工

電信第六六二號 (暗、至急) 側ノ阻ニ依リ、脱線得サリシカ破

往電第六四二一號ニ關シ、上リ線約十、サシチ一カ線破セ

其後ノ狀況竝ニ支那側ノ態度等ヲ綜合考察スルニ、奧地方面ニ於テ

ハ地方ニ依リ事情ヲ異ニスヘキモ、特別ノ事情ナルキ限り居留民ノ全

般的引揚實行ヲ必妥トスルカ如キ事態ニ未タ立至ラヌトモカ思考セ

ラ、居タルト同時ニ通信交通ノ聯絡不完全ナル折柄引揚ニハ幾多ノ困

難伴フヘキニ依リ、現在ノ處準備ヲ爲リシメ置クニ止メ、何等御指示

ヲアル迄ハ當方ヨリ狀勢判斷ニ必要ナル資料ノ供給其他充分ノ聯絡

ヲ保持シ萬一ニ備フル様處置ソツツアリ

支、北平、在滿各領事ニ轉電セリ

外務省

昭和6 二八二二三

暗

奉天

二十日前發

本省

九月二十日前着

幣原外務大臣

奉天 林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

林總領事

第六六四號 (極秘)

奉天

昭和六年九月二十日後發

同 六年九月二十日後着

木村理事ノ談ニ依リハ鐵道爆破直後滿鐵側ヨリ修理ノ爲保線工夫
 ヲ現場ニ入ルン事ヲ阻止ニ依リ(脱)駐得セリシカ破
 損箇所ハ下り線約七寸ノサビチ土線約十寸ノサビチ力爆破セ
 ラレタルモノラシキ痕跡アリ枕木ノ破損モ二本ニ止マリ破損箇所
 モ兩線合計一米ニ達スル爲容易ニ修理シ得タル譯ナル由ナリ又
 奉天警察特務ハ兵卒力盡以來準備ヲ命セラレ又復夜間演習カト思
 ヒ居タルニ本物ナリシト語り合ヘルヲ耳ニシタルコトアリ又十八
 日午後(事件前)當館一館員ハ海城ヨリ來奉ノ一將校力既ニ水杯
 ヲ爲シテ來レル旨語り居レルヲ聞込ミタルコトアリ御參考迄

外務省

第 號

奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月二十日後發
同 六年九月二十日後着

電信第六六五號(暗)

在電第六六五號(暗) 軍司令部 駐屯中止サレタル

其後在新民屯分館主任ヨリ支那敗殘兵多敷同地ニ到着シ十九日夜

ニ當ルコトニ決定セリ トスル氣配アリ土屋主任ヨリ同地中國領官

支、北平、南京、齊滿各領事ニ轉電セリ

ノ傾向モアリ今後ノ狀態氣遣ハルルニ付二十日夜迄ニ軍隊派遣ヲ

ル様手配アリタキ旨電話アリタルカ軍制ニ於テハ同方面ニ兵力ヲ

翻クノ餘裕無シトノコトナルノミナラス此際軍ノ行動區域ヲ同方

面迄擴張スルコトハ慎重考慮ノ要アルコト付不取敢本官ヨリ同主任

ニ對シ應援ノ爲差當リ更ニ五名ノ警官ヲ派遣スルコトトスヘキニ

付同官ノ裁量ニ依リ居留民引揚手配方至急措置方指令シタリ

外務省

第和 〇 號二八九七 暗 奉天 二十日後發

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛 日後着

幣原外務大臣

奉天

昭和六年九月二十日後發
同 六年九月二十日後着

第六六七號 (極秘)

電信第六六六號 (暗) 軍司令官ト會見ノ際内田總裁ノ言傳トシテ
往電第六五七號ニ關シサルコトヲ希望スト述ヘ更ニ今後ノ計畫如
其後在新民屯分館主任ヨリ支那敗殘兵多數同地ニ到着シ十九日夜
我領事分館ヲ襲撃セントスル氣配アリ土屋主任ヨリ同地中國側官
憲ニ交渉シ取締ラシメタル結果同夜ハ無事ナリシモ敗殘兵尙増加
ノ傾向モアリ今後ノ狀態氣遣ハルルニ付二十日夜迄ニ軍隊派遣ア
ル様手配アリタキ旨電話アリタルカ軍側ニ於テハ同方面ニ兵力ヲ
割クノ餘裕無シトコトナルノミナラス此際軍ノ行動區域ヲ同方
面迄擴張スルコトハ慎重考慮ノ要アルニ付不取敢本官ヨリ同主任
ニ對シ應援ノ爲差當リ更ニ五名ノ警官ヲ派遣スルコトトスヘキニ
付同官ノ裁量ニ依リ居留民引揚手配方至急措置方指令シタリ

外務省

昭和6

一二八九七

暗

奉天
本省

九月二十日後着

亞

幣原外務大臣

林總領事

第六六七號（極秘）

二十日伍堂理事臨時陸軍司令官ト會見ノ際内田總裁ノ言傳トシテ
 出來ル丈事件ヲ擴大セザルコトヲ希望ス下述ノ更ニ今後私計畫如
 何ヲ問ヒタルニ司令官ハ尙今後必要起レ共ハ爾賓居留民保護ヲ爲
 ニ何等カノ手段ヲ執ルニ至ルヤモ知レヌト語レル由ナルカ右會見
 前滿鐵囑託將校ヨリ軍隊ヲ哈爾濱ニ輸送ノ場合東支鐵道ニ對シ滿
 鐵ヨリ之カ交渉ニ當リ吳ルルヤシノ質問アリ之ニ對シ伍堂理事ハ滿
 鐵ノ職務ニアラスト拒絕セル旨同理事ヨリ報告アリタリ

支、長春、哈爾濱ニ轉電セリ

暗送セリ

支ヨリ上海へ轉電アリ

外務省

昭和6 一號二九一四 暗 奉天 二十日後發 亞

幣原外務大臣 在奉天林總領事ヨリ本省 九月廿一日前着 奉天 昭和六年九月二十日後發 林總領事

第六六八號 往電第六五八號ニ關シ 午後同地公安局及公安

其後引續キ研究商議ノ結果不取敢潘陽市商會所屬商團（私設巡警

全員六百名ニ舊巡警ノ制服ヲ着ケ棍棒ヲ持タシメ憲兵隊監督指揮

ノ下ニ支那街ノ治安維持ニ當ラシムルコトニ三谷憲兵分隊長及潘

陽縣長李毅間ニ相談纏マリ即時編成ヲ了シ二十日日夜以前ニ全市

ニ配置シテ各商店ノ門戸ヲ開カシムルコトトナレリ引續キ此組織

ヲ擴張スル筈

支、北平、天津、漢口、廣東、青島、濟南へ轉電シ在滿各領事へ

大臣 長春へ轉電セリ

暗送セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

外務省

第和6 號二八三九 奉天 廿日前發

幣原外務大臣 在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛 奉天 昭和六年九月二十日後發 林總領事

第脫號

本溪湖守備隊ハ十九日午後同地公安局及公安大隊ノ武裝ヲ解除シ
電信第六六九號ヨリ電報アリタリ
本官發哈爾濱宛電報

第三〇號（至急極秘）

今回ノ事件ト關聯シ浪人數名當地ヨリ貴地方へ入込ミタルヤノ疑
アリト右ハ元憲兵大尉甘粕正彦ヲ含ミ居リ何等カノ策動ニ出ツル
ナキヲ保セス大臣宛往電第六六七號ノ次第モアリ此際特ニ御注意
ヲ請フ
大臣、長春へ轉電セリ

外務省

昭和6 二八三九 平 奉天 廿日前發

在奉天林總領事ヨリ本省外務省 九月廿日發

幣原外務大臣

奉天

林總領事

第脫號

本溪湖守備隊ハ十九日午後同地公安局及公安大隊ノ武装ヲ解除シ
新民府同地警察ヨリ電報ア駐タリ 報告越シノ上轉電方依頼アリタ

既報ノ通東方ヨリ移動シ來レル支那兵約一千名ハ昨十九日夜入城
シタルモ本朝迄ニ悉ク撤退セリ在留民ノ最モ不安ニ感シタル第一
夜ハ市中何等ノ事故モ發生セス平穩又當館ニ避難セル婦女子異狀
ナシ男子ハ警察官ヲ應接(巡查五名ヲ含ム)撤肖構内、學校、電
話局等警戒セリ支那側官憲ハ既ニ本邦人ノ生命財產ノ保護ヲ聲明
シ居ルモ小官ハ今後共更ニ支那官憲ヲ督勵シ其生命ヲ全クセシム
ル所存ナリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月廿一日前着
同 六年九月二十一日前着

電信第六七一號 (略)

新民府土屋主任ヨリ在通電話ニテ報告越シノ上轉電方依頼アリタ
二十日朝英國總領事「イースツ」北寧鐵路工場監督「サダデン」

ナル者ヲ。昨。ヒ。來。訪。今。朝。「サ」カ。自。動。車。ニ。テ。滿。鐵。一。ク。ロ。ス。附。近。ニ
既。報。ノ。通。東。方。ヨ。リ。移。動。シ。來。レ。ル。支。那。兵。約。一。千。名。ハ。昨。十。九。日。夜。入。城

シタルモ本朝迄ニ悉ク撤退セリ在留民ノ最モ不安ニ感シタル第一
シタルモ本朝迄ニ悉ク撤退セリ在留民ノ最モ不安ニ感シタル第一

夜ハ市中何等ノ事故モ發生セス平穩又當館ニ避難セル婦女子異狀
ナシ男子ハ警察官ヲ應援 (巡查五名ヲ含ム) 徹肖構内、學校、電

話局等警戒セリ支那側官憲ハ既ニ本邦人ノ生命財產ノ保護ヲ聲明
シ居ルモ小官ハ今後共更ニ支那官憲ヲ督勵シ其生命ヲ全フセシム

ル所存ナリ

隊第一大隊所屬兵中ニ略同等ノ行爲ヲ爲スル者アルコト判明

隊第一大隊所屬兵中ニ略同等ノ行爲ヲ爲スル者アルコト判明

外務省

第ルニ依號大隊長島本中佐不取敢「イ」ヲ訪問シ右兵卒ハ素ヨリ
 侮辱ノ在奉天林總領事館リ幣原外務大臣宛ハ遺憾ナル旨述ヘタル
 ニ「イ」ハ之ヲ諒トシ同種事奉天再昭和六年九月二十一日前發
 同 六年九月二十一日前着

タル電第六七三號（暗）
 支北平南京へ轉電セリ
 二十日朝英國總領事「イ」スツ」北寧鐵路工場監督「サダデン」

ナル者ヲ伴ヒ來訪今朝「サ」カ自動車ニテ滿鐵「クロス」附近ニ
 差シ掛リタル際守備中ノ日本軍ニ阻止セラレ一兵士ハ自動車「ボ
 ンネット」ノ上ニ擴ケアリタル英國旗ヲ裂キ「サ」ノ身體検査ヲ
 爲シ銃床ニテ脚部ヲ打チ中國人運轉手ノ面部ニ打撲傷ヲ負セタル
 事件アリ國旗及英人ノ身體ニ對スル侮辱ニ對シテハ何レ本官ニ對
 シ正式申入ルヘキ旨述ヘタリ依テ軍司令官ニ事實取調方及此種事
 件ヲ再發セシメサル様嚴重命令方依頼シ置キタルカ當地獨立守備
 隊第二大隊所屬兵中ニ略同様ノ行爲ヲ爲シタル者アルコト判明シ

外務省

タルニ依リ大隊長島本中佐不取敢「イ」ヲ訪問シ右兵卒ハ素ヨリ
侮辱ノ意思ナカリシモ斯ル結果ヲ來シタルハ遺憾ナル旨述ヘタル
ニ「イ」ハ之ヲ諒トシ同種事件ヲ再發セシメサル様切望スト答ヘ
タル趣ナリ

支、北平、南京へ轉電セリ

第和6號 三九〇九 昭天 九月二十一日前發

幣原外務大臣宛 奉天 昭天 昭和六年九月二十一日前發

第六七六號 奉天 同 六年九月二十一日前發

電信第六七四號 (當地) 市政ニ關シ本二十日中ニ別電ノ通り布告ヲ出

往電第六七一號ニ關シ本日午前軍司令部ヨリ本官ノ來訪ヲ求メ來レ

其後土庫ヨリ中國側地方官憲ニ於テ充分責任ヲ以テ邦人ノ保護ニ

當ルヲ以テ此點ハ充分安心アリタキ旨言明ノ次第アルト其後ノ形

勢ニ顧シ今暫ク事態ヲ靜觀シタル上態度ヲ決スル様致シタキ旨電

話アリ再考ルニ依リ警官ノ増派出ハ一時見合セトシタリ

同意ヲ得ルニ至ラス依テ本官ハ後刻軍司令官ニ會見ノ上事實上日

本側ニ於テ市政ヲ布ク點ハ軍人ヲ市ニトスル點ニ付其非ヲ指摘

懇談シタルニ軍司令官ハ大体本官ノ説ニ贊同ナルモ既ニ命令書

ルニ付直ニ以正シ兼ヌルモ右ハ單ニ數日間ノコトニ過キス

外務省

昭和6引渡三所〇九リ暗述奉天リ電二二〇一日前發訓電ノ次第モ

九月二十一日前着 林總領事

幣原外務大臣 轉電セリ

第六七六號

關東軍司令官ハ當地市政ニ關シ本二十日中ニ別電ノ通り布告ヲ出
スコトトナリ居ル處本日午前軍司令部ヨリ本官ノ來訪ヲ求メ來レ
ルモ外出中ナリシ爲森島赴キタルニ三宅參謀長二宮憲兵隊長板垣
參謀同席ニテ關東軍ニテハ軍政ヲ布ク次第ニ非サルモ市政ニ關シ
本日布告ヲ出スコトトナリタリトテ前記布告ヲ示シタルニ付森島
ヨリ再考ヲ求メタルモ確定談ニシテ司令官決裁濟ノモノナリトテ
同意ヲ得ルニ至ラス依テ本官ハ後刻軍司令官ニ會見ノ上事實上日
本側ニ於テ市政ヲ布ク點、軍人ヲ市長トスル點ニ付其非ヲ指摘シ
懇談シタルニ軍司令官ハ大体本官ノ說ニ贊同ナルモ既ニ命令渡ナ
ルニ付直ニ改正シ兼ヌルモ右ハ單ニ數日間ノコトニ過キス結局支

外務省

那人ニ引渡ス所存ナリト述ヘタリ貴電第二〇〇號御訓電ノ次第モ

昭御參考迄九一〇大略 奉天 二十一日前發

公使及在支各領事ニ轉電セリ 本省 九月二十一日前着 林總領事

第六七七號

日本軍司令官ハ奉天城附近ノ現況ニ鑑ミ日支官民ノ幸福ヲ増進

スル爲昭和六年九月廿日ヨリ軍ノ指導ニ基キ日支人ニ依リ該地

域ニ臨時市政ヲ施行ス

奉天市政ノ區域ハ奉天城及商阜地ノ範圍トス滿鐵附屬地ハ別ニ

從前ノ通りトス

市政ノ業務ハ市政公署ニ於テ行フ公署ヲ城内小西門大街ニ設ク

市政業務ノ範圍ハ特ニ定ムル所ノ外奉天市ニ關スル一切ヲ

含ムモノトス

市政ノ役員(左)ノ如シ

其職ノ細部ニ關シテハ別ニ指示ス

外務省

昭和6年 一二九〇大略

奉天 二十一日前發
本省 九月二十一日前着

林總領事

幣原外務大臣
富村順一
庵谷枕

第六七七號

鶴岡榮太郎

日本軍司令官ハ奉天城附近ノ現況ニ鑑ミ日支官民ノ幸福ヲ増進

スル爲昭和六年九月廿日ヨリ軍ノ指導ニ基キ日支人ニ依リ該地

域ニ臨時市政ヲ施行ス

吉川廉

奉天市政ノ區域ハ奉天城及商阜地ノ範圍トス滿鐵附屬地ハ別ニ

從前ノ通りトス

市政ノ業務ハ市政公署ニ於テ行フ公署ヲ城内小西門大街ニ設ク

市政業（務）ノ範圍ハ特ニ定ムル所ノ外奉天市ニ關スル一切ヲ

含ムモノトス

市政ノ役員（左）ノ如シ

其他ノ細部ニ關シテハ別ニ指示ス

外務省

昭市長 一三土肥原大佐

同秘書 富村順一

總務課長 庵谷忱

警務課長 鶴岡榮太郎

財務課長 三谷末次郎

衛生課長 守田福松

工程課長 技術課長 大田吉川廉

以上ノ外別ニ示ス所ニ依リ日支兩國人ヲシテ之ニ關與セシム

轉電先前電ノ通

在滿各領事官公使朝辭續書人時電セリ

奉天 九月二十日後發

林綱領事

亞

外務省

昭和6 一二八九六 暗

奉天 二三十日後發
本省 九九月二十日後着

亞

幣原外務大臣

林總領事領事

第六七八號

當地在留鮮人中ニハ事件ニ依リ甚ク不安恐怖ニ陥リ居ル中國人ニ對シ侮蔑ノ態度ヲ有シ甚クシキハ掠奪ヲ行フ狀態サヘアリタルニ付當館ニ於テハ鮮人間ニ右ノ如キ不心得ヲキ様勸說セシメ居ルト共ニ警察ヲシテ軍側ト協力シ斯ル不法行爲ヲ取締方ニ努力シツツアリ間島ヨリ四分館及吉林、通化、海龍へ哈爾濱ヨリ齊齊哈爾、滿洲里へ鐵嶺ヨリ拘鹿へ長春ヨリ農安へ轉電請フ
在滿各領事、公使、朝鮮總督へ轉電セリ

外務省

昭和6 在奉天 林總領事 暗

奉天 外務大臣 二十一日前發
本省奉天九月廿二日前着廿一日前發
同 六年九月廿一日前着

幣原外務大臣 (暗)

第六七九號宅參謀長來訪ノ節事件ヲ擴大セサル必要ニ付更ニ一段
二十日午後八時三宅參謀長來訪シ往電第六七九號報告及本月十四
日撫順ニ於ケル警備會議ノ件ニ關シ若夫川上中隊長カ性質粗笨ナ
リシ爲演習計劃ヲ餘リニ強ク説明シタル爲今固ノ事變カ軍ノ計劃
的行動ナルヤノ疑ヲ招クコトトナリタル次第ナルニ付誤解ヲ手帳
希望ストテ續々辯明ヲ試ミタルニ付本官ハ唯之ヲ聞キ置クニ止メ
テ付本官ハ右ハ政府ノ方針ニ背馳スルヲ以テ居留民ニ危害ノ及フ
カ知ル北平、南京ニ轉電セリ 避難ノ方法ニ出ツルノ外ナカルヘント
リ開カセ置キタリ
支、南京、北平、哈爾濱、長春、鐵嶺、遼陽、安東、上莊ニ轉電
哈爾濱ヨリ吉林ヘ轉電アリタリ

外務省

第 九 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

二十一日前發

幣原外務大臣

奉天

昭和六年九月廿一日前發
同 六年九月廿一日前着

電信第六八〇號（暗）

二十日夜三宅參謀長來訪ノ節事件ヲ擴張セサル必要ニ付更ニ一段
ノ説明ヲ試ミタル處參謀長ハ御趣旨ハ尤ナルモ哈爾濱及吉林方面
ハ頗ル不穩ナルヤノ情報アリ之等ノ地方ニ於テ居留民力危害ヲ加
ヘラルル如キ場合ニハ當該領事ノ請求等ニ依リ出兵セサルヲ得サ
ルコトトナルナキヲ保セス軍トシテハ之等ノ場合ニ處スル途モ研
究ヲ怠ラスト述ヘ言外ニ兩地出兵ノ計畫アルカ如キ口吻ヲ洩セル
ニ付本官ハ右ハ政府ノ方針ニ背馳スルヲ以テ居留民ニ危害ノ及フ
カ如キ場合ニハ出來ル丈避難ノ方法ニ出ツルノ外ナカルヘシト語
リ聞カセ置キタリ

支、南京、北平、哈爾濱、長春、鐵嶺、遼陽、安東、牛莊ニ轉電セリ
哈爾濱ヨリ吉林へ轉報アリタシ

外務省

昭和6 一二九〇七 暗

奉天 二十一日前發

昭和6 一二九七八 暗

本省 九月二十一日前着

幣原外務大臣

本省 九月廿一日前着 林總領事

第六八一號 幣原大臣

林總領事

軍部情報ニ依レハ奉天ヨリ敗走セル支那兵約二千名ハ目下撫順城
内ニ潜伏セルコト判明セル趣ニテ駐奉歩兵第二十九聯隊藤井大隊
長ノ率ユル二箇中隊ハ二十日午後山砲二、野砲二、迫撃砲四其他
機關銃ヲ携ヘ撫順ニ赴キ同夜中ヲ期シ撫順城ヲ砲撃シテ右敗走
ヲ殲滅スル計畫ノ由ナリ派遣セル自軍司令部ヨリ通報アリタリ
轉電先前電ノ通り使 南京

外務省

昭和6

一一二九七八

暗

奉天

本省

九月廿一日午後發

幣原外務大臣

林總領事

第六八三號 (機密)

吉林ノ狀勢不安ニシテ在留民ヨリモ出兵請求アリ且吉林城ノ北方ヨリ西方ニ對シ支那軍ニ於テ防禦陣地修築中ノ旨情報モアルニ付本三十一日午前九時半長春發吉林へ歩兵一個旅砲兵一個大隊工兵一個中隊車砲一大隊ヲ派遣セル旨軍司令部ヨリ通報アリタリ

轉電先北平、公使、南京

外務省

昭和6 二二九九七七 暗

奉天 本省

九月廿一日後發
九月廿一日後着

幣原外務大臣

第六八五號 (極秘)

林總領事

當地滿鐵公所ヨリノ内報ニ依レハ二十日午後飛行隊員百五十名當
地ニ到着シタル外安東ヨリノ要求ニ依リ九輛可貨車空車ニテ安東
ニ出發シ空車ニテ當地ニ引返セル趣ナリ否定ノ居タリ

此ノ外
...

外務省

昭和六年九月二十一日午後

昭 和 六 年 一 二 一 九 八 二 一 暗 奉 天 本 省 九 月 廿 一 日 後 發 着 九 月 廿 一 日 後 發 着 林 總 領 事

第六號 原外務大臣

吉 籍 在 兵 空 號 シ 二 十 一 日 軍 司 令 官 ハ 本 官 ニ 對 シ 軍 ハ 之 レ 以 上 事 件
ヲ 德 電 策 奪 外 方 號 手 關 シ 吉 林 居 留 民 ヨ リ 頻 リ ニ 危 險 ナ ル 狀 況 報 告
上 共 士 出 兵 森 實 軍 司 令 官 實 行 會 見 留 民 際 確 定 ス 各 處 軍 司 令 官 受 命 飛 行 險 者 具 着
ア 奉 不 信 八 肯 定 吉 林 軍 朝 鮮 軍 隊 移 動 二 說 付 上 事 々 確 定 シ 居 多 々 事 々 ノ 情
報 モ ア リ 滿 鐵 沿 線 ニ 於 ケ ル 軍 事 行 動 カ 吉 林 軍 ヲ 刺 戟 シ 之 カ 爲 吉 林
居 留 民 ヲ 犠 牲 ニ ス ル カ 如 キ コ ト ア ラ ハ 責 任 ヲ 免 レ ス 等 ノ 考 ヨ リ 今
朝 午 前 三 時 出 動 命 令 ヲ 發 シ タ ル 次 第 ナ ル カ 貴 官 ヲ 通 シ テ 吉 林 總 領
事 ノ 意 圖 ヲ 尋 ス ル コ ト ヲ 考 慮 セ ル モ 吉 長 間 通 信 杜 絕 ノ 折 柄 時 機 ヲ
失 ス ル 虞 ア リ 遂 ニ 其 手 續 ヲ 取 ラ ス シ テ 斷 行 セ リ 從 テ 吉 林 ノ 情 勢 安
靜 ニ 歸 セ ハ 小 部 隊 ヲ 殘 ス ニ 止 メ 大 部 隊 ハ 歸 還 セ シ ム ル 方 針 ナリ 云

昭和6年9月21日午後發モ今回事件

ノ跡始末ハ國際的ニ可成リ而シテ本省九月二十一日後着

幣原外務大臣

林總領事

第六八七號(極秘)

間島、吉林、長春へ轉電セリ

吉林出兵ニ關シ二十一日軍司令官ハ本官ニ對シ軍ハ之レ以上事件ヲ擴大セサル方針ナルモ吉林居留民ヨリ頻リニ危險ナル狀況報告ト共ニ出兵保護ヲ訴へ來リ居留民中ニハ既ニ暴行ヲ受ケタル者モアリト言ヒ他方吉林軍憲ハ城外ニ防備工事ヲ施シツツアリトノ情報モアリ滿鐵沿線ニ於ケル軍事行動カ吉林軍ヲ刺戟シ之カ爲吉林居留民ヲ犠牲ニスルカ如キコトアラハ責任ヲ免レス等ノ考ヨリ今朝午前三時出動命令ヲ發シタル次第ナルカ貴官ヲ通シテ吉林總領事ノ意嚮ヲ尋ヌルコトヲ考慮セルモ吉長間通信杜絶ノ折柄時機ヲ失スル虞アリ遂ニ其手續ヲ取ラスシテ斷行セリ從テ吉林ノ情勢安靜ニ歸セハ小部隊ヲ殘スニ止メ大部隊ハ歸還セシムル方針ナリ云

外務省

云ト語レリ依テ本官ハ既ニ出兵濟ノ上ハ已ムヲ得サルモ今回事件
 ノ跡始末ハ國際的ニ可成リ面倒ナルヘキヲ以テ出來得ル丈ケ政府
 ノ方針ニ適フ様スルノ必要ナル旨ヲ忠告シ置キタリ
 支六北平、南京、間島、吉林、長春へ轉電セリ
 當地一般狀況左ノ通
 一軍部ノ臨時市政公署ハ二十二日ヨリ事實上ノ事務ヲ開始シ舊市
 政公署、瀋陽縣等ノ吏員ヲ利用シ市内ノ秩序維持ニ參加セシメ居
 ルカ如ク午後二時館員ノ實地視察ニ依レハ附屬地ニ近キ處ヲ除
 キテハ市民依然閉門且交通少ナシ又軍側ハ滿鐵附屬地ト中國行旅
 區トノ間ニ於テ通行者ヲ檢問シ一般中國人ノ附屬地進入ヲ禁止シ
 居タルカ二十日午後ヨリ之ヲ緩和セル爲當地中國人ノ滿鐵ニ依リ
 關東州内方面へ避難スルモノ増加セリ
 一城内居住邦人ノ附屬地ニ避難スルモノモ亦次城内ニ避難
 ツツアリ

外務省

昭和6 第三〇四三 暗 奉天 二十一日後發

幣原外務大臣

在奉天林總領事ヨリ本省外務大臣宛 日後着

第六九一號

當地一般狀況左ノ通

當地方ノ臨時市政公署ハ二十二日ヨリ事實上ノ事務ヲ開始シ舊市

下軍部ノ臨時市政公署ハ二十二日ヨリ事實上ノ事務ヲ開始シ舊市

政公署、瀋陽縣等ノ吏員ヲ利用シ市内ノ秩序維持ニ參加セシメ居

ルカ如ク午後二時 館員ノ實地視察ニ依レハ附屬地ニ近キ處ヲ除

キテハ市民依然閉門且交通少ナシ又軍側ハ滿鐵附屬地ト中國行政

區トノ間ニ於テ通行者ヲ檢問シ一般中國人ノ附屬地進入ヲ阻止シ

居タルカ二十日午後ヨリ之ヲ緩和セル爲當地中國人ノ滿鐵ニ依リ

關東州内方面へ避難スルモノ増加セリ

ニ城内居住邦人ノ附屬地ニ避難シ居タルモノモ漸次城内ニ歸還シ

ツツアリ

ツツアリ 北平 七月 奉天

外務省

第 和 日 號 三〇四二 二十一日

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 奉天和 昭和六年九月二十一日 午後着

電信第六九二號 (暗)

通化方面ノ狀況ニ關シ滿浦鎮警察署長カ與津ヨリ長距離電話ニテ

聽取セル處極メテ平穩ナル旨轉報アリタリ

支北平、南京へ轉電セリ電話聯絡ニ依リ平穩ナルコトヲ確カ

メ得タルカ海瀟方面トハ未タ聯絡着カサルニ付貴館ヨリ柳鹿分館

ヲ通シ聯絡方御盡力ノ上均鹿分館管内ノ狀況ト併セ大臣及當方へ

御電報ヲ請フ

大臣へ轉電スリ

外務省

第 和 6 一 號 三〇四二 暗 奉天 二十一日後發

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛 十一日後着

幣原外務大臣 奉天 昭和六年九月二十一日後發
同 六年九月二十二日前着

第六九五號 電信第六九三號(暗) 撫順城内ノ敗兵ハ我方攻撃ニ先チ二十日夜

本官發鐵嶺宛電報第三號

海鐵道沿線地方ノ電報不通ノ爲情勢明カナラス百方聯絡ヲ計リ

居ル處通化ハ輯安縣ヨリノ電話聯絡ニ依リ平穩ナルコトヲ確シカ

メ得タルカ海瀧方面トハ未タ聯絡着カサルニ付貴館ヨリ柳鹿分館

ヲ通シ聯絡方御盡力ノ上均鹿分館管内ノ狀勢ト併セ大臣及當方へ

御電報ヲ請フ

大臣へ轉電ナリ

外務省

第 昭 和 6 一 三 〇 四 二 暗 奉 天 二 十 一 日 後 發
在 奉 天 林 總 領 事 官 幣 原 外 務 大 臣 九 月 二 十 一 日 後 着

幣 原 外 務 大 臣 奉 天 昭 和 六 年 九 月 二 十 五 日 着
同 六 年 九 月 二 十 五 日 着

第 六 九 五 號 公 信 機 密 第 七 四 七 號

往 電 第 六 八 一 號 關 於 撫 順 城 內 之 敗 兵 へ 我 方 攻 擊 二 先 于 二 十 日 夜

全 部 逃 走 セ リ 奉 天 城 内 外 占 領 個 處 備 現 狀 二 關 ス ル 件

本 件 二 關 シ 二 十 日 附 當 館 醫 務 署 ヨ リ 左 記 ノ 通 報 告 ア リ タ ル 二 付 何

支 北 平 南 京 瀋 陽 鐵 嶺 哈 爾 濱 長 春 安 東 牛 莊 へ 轉 電

等 御 參 考 迄 報 告 ス

奉 天 城 内 外 占 領 個 處 ノ 醫 備 ハ 奉 天 駐 割 第 二 十 九 聯 隊 ノ 主 力 是 二 任

シ ツ ツ ア ル カ 該 醫 備 ノ 配 置 状 況 左 ノ 如 シ

中 務 省

第 號 記

長在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

省 政 府 ナシ 奉天

昭和六年九月二十一日付
同 六年九月二十五日着

公 信 機 密 第 七 四 七 號

奉天城内外占領個處警備現狀ニ關スル件

本件ニ關シ二十日附當館警察署ヨリ左記ノ通報告アリタルニ付何

等御參考迄報告ス

一個小隊

電 燈 廠

一個小隊

奉天城内外占領個處ノ警備ハ奉天駐劄第二十九聯隊ノ主力是ニ任

シツツアルカ該警備ノ配置狀況左ノ如シ

一個中隊

航 空 廠

飛行機格納庫 一個中隊

公安局及分局 ナシ

外 務 省

郵務記	帳官公署	省政府	財北政線廳管理	教育廳砲廠	交北涉省署工廠	第一監獄處	電兵燈令廠	化學工廠	造城幣摺廠	兵銀江號廠	航軍空令處	飛行機格納庫	公安局及分局
ナシ	下士以下五名	ナシ個中隊	第二大隊本部	ナシ個小隊	七名	一個分隊	一個小隊	一個小隊	一個小隊	一個中隊	城西憲兵分隊ヲ設ケル	一個中隊	ナシ

外務省

郵務局 ナジ

第東大號營 二個中隊

北大營 一個中隊

東北無線電管理處 憲兵隊本部

遠擊砲廠 一個小隊

先東北三省兵工廠兵機廠地 七名

全省警務處 五名

憲兵司令部

節陽縣政府

軍省城稅捐局

居各銀行號

文海軍司令部

教養工廠 三名

外務省

第

號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月二十二日午前發
同 六年九月二十二日午前着

電信第六九六號（暗）

先月來葫蘆島旅行中ノ當地米國領事ハ二十一日午前一時半外人二
名ト共ニ皇姑屯ニ下車セル處歩哨ニ誰何セラレタルモ言語不通ノ
爲大和「ホテル」迄同行セラレタル上夫々歸宅シタル事件アリ時
節柄相當大袈裟ニ噂セラレ居ルモ同領事本日來館ノ際右ノ如キハ
軍事行動ノ際有勝ノコトニシテ丁寧ナル取扱ヒヲ受ケタル旨洩シ
居タリ爲念
支、北平へ轉電セリ

外務省

第

號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月二十二日前發
同 六年九月二十二日前着

電信第七〇二號 (暗)

二十一日夜當地ニ於テ全滿日本人大會開カレ此際全滿洲の軍事占
領ヲ斷行ス可ク舉國一致國軍ヲ發動ス要望スル旨ヲ決議シタル上
軍司令官及本官ヲ訪問シ決議文ヲ手交セリ對安全ヲ保障シテ歸奉セ
シムルコトヲ要スヘク北平ニ於テ交渉セハ當地ニ於ケルヨリ者
ク不利ナルハント云ヒ米或國軍ニシテハ頻リニ近ク日本
政府ヨリ日支交渉ノ提議アルヘテヲ尋テ未ダ之無キヲ甚歎ク不
諒カリ居タル感アリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月二十二日前發
同 六年九月二十二日前着

電信第七〇二號（暗）

獨逸領事「キユルボーン」ハ館員ニ對シ今回ノ占領ノ目的ハ未タ
 明カナラサルカ大至急東北當局ニ對シ懸案解決ノ重要提議ヲ爲ス
 コト緊要ナリ夫レニハ張學良ニ身體ノ絶對安全ヲ保障シテ歸奉セ
 シムルコトヲ要スヘク北平ニ於テ交渉セハ當地ニ於ケルヨリ著シ
 ク不利ナルヘント云ヒ米國領事「ビンセント」ハ頻リニ近ク日本
 政府ヨリ對支交渉ノ提議アルヘキヲ尋ネ未タ之無キヲ甚敷ク不思
 議カリ居タル趣ナリ
 支、北平、南京へ轉電セリ

外務省

昭和6

一三二〇四

暗

奉天
本省

九月

廿二日

午前

着

發

幣原外務大臣

第七〇四號

朝鮮軍用五個列車二分乗移其第一列車六聯陸日午後九時當地着其後

上時間置手一列車宛到着塘居レリ

支、南京、塘沽、天津、青島、轉電林、齊々哈爾へ轉電セリ

林總領事

外務省

昭和6 一三一六四 暗

奉奉天
本本省
九月二十二日
午後發着
明

幣原外務大臣

第七〇六號 (秘)

廿九日朝遼陽中九嶺地ニ移動スルハ聯隊八二二日中長春ニ向

弟出發ル際ハ中長春ニ向テハハ長春ニ向テハハ長春ニ向テハハ長春ニ向

支解北平ハ南京ハ長春之哈爾濱又吉林、齊々ハ爾ハ轉電セリ

本電極秘

外務省

昭和6 一三一五二 暗

在奉天林總領事

奉天 本省外務 九月 二十一日 後發

幣原外務大臣

奉天 昭和六年九月二十二日 林總領事

第七〇七號(在七)

當此號地(第七號)聯隊モ在籍第二九〇聯隊ノ北行ノ結果第二師團ハ

第七號聯隊集同様に相中長春右向ハ發進ムト準備ナリ

朝鮮第七七八聯隊之ト交替スル點西方四百米ノ處ヲ取外

本電極秘 北平、南京、哈爾濱、長春、吉林、齊齊哈爾ハ轉電セリ

外務省

昭和6

一三一五二

暗奉天

二十二日後發

在奉天林總領事ヨリ本省外務

幣原外務大臣

奉天

昭和六年九月二十二日後發

第七〇八號(花)

往電第七〇七號當地第一六第二九兩聯隊ノ北行ノ結果第二師團ハ

全部北方ニ集中スル事トナリ直後軍カ右ハ哈爾濱ニ進ムヲ準備ナリ

ト想像セラルル事ニ依リ「タロス」起點西方四百米ノ線路ヲ取外シ

完全阻止工事をセラルル由シ。吉林、齊齊哈爾へ轉電セリ

支、北平、南京、哈爾濱、長春、吉林、齊齊哈爾へ轉電セリ

外務省

第和6 號三一七八 暗奉天 廿二日後發

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

亞

幣原外務大臣

奉天

昭和六年九月二十二日後發
同 六年九月二十二日後發

第七一二號

電信第七〇九號(附)兵第七十七聯隊ノ内二個中隊ヲ新民府へ向ケ

滿鐵ハ夕ロスハ北寧線ノ事件直後軍ヲ於テ遮斷工事ヲ施シタルカ

二十天日軍出手ニ依リ「夕ロス」起點西方四百米ノ線路ヲ取外シ

完全ヲ阻止工事ヲ付セル由莊、哈爾濱、吉林、齊齊哈爾へ轉電セ

支、北平、南京、哈爾濱、長春、吉林、齊齊哈爾へ轉電セリ

外務省

昭和66 一三二七八 暗

奉天 本省

九月廿三日後着

亞

幣原外務大臣

第七一六號 (極秘)

朝鮮五里來著セル歩兵第七十七聯隊才内三個中隊ハ新民府へ向ケ
 又歩兵第七十八聯隊ノ内一個大隊ハ鄭家屯へ向ケ夫々二十三日
 引奉天ヨリ出發ニ決セル由ナリ堂理事ハ廿二日朝鮮奉ノ木村理事
 支北平、南京、長春、牛莊、哈爾濱、吉林、齊齊哈爾へ轉電モ
 引莫ナリ滿鐵ノ委任經營關係スラナキ純然タル社外線ナルヲ以テ
 軍司令官ヨリ滿鐵總裁ニ對シ明確ナル命令ヲ發セラレサル限り之
 カ運行ヲ引受クルヲ得サル旨ヲ回答シタル處軍司令官ニ於テモ右
 命令ヲ發スル迄ノ決心ハナカリシモノノ如ク結局何四洮鐵路局長
 ヲ強制シ廿二日ノ鞍山守備隊及龍山野砲兵ノ鄭家屯出發トナリ
 ル次第ナリト言フ右外部ニハ絕對檢査ニ對取計ヒヲ請フ

外務省

昭和6 二二三二七四 暗

奉天

九月二十三日午後發
九月廿三日前着

幣原外務大臣

第七一六號（極秘）

林總領事

滿鐵伍堂木村兩理事ノ内報ニ依リハ廿一日軍司令官ヨリ伍堂理事
 ニ對シ四洮鐵路ニ依リ軍隊輸送ノ場合ニハ滿鐵ニ於テ之ヲ進行ヲ
 引受ケ貰ヒタシトノ申出アリ伍堂理事ハ廿二日朝歸奉ノ木村理事
 ト協議ノ上兩理事同列ニテ軍司令官ヲ訪問シ四洮鐵路ハ吉長鐵路
 ト異ナリ滿鐵ノ委任經營關係スラナキ純然タル社外線ナルヲ以テ
 軍司令官ヨリ滿鐵總裁ニ對シ明確ナル命令ヲ發セラレサル限り之
 カ進行ヲ引受クルヲ得サル旨ヲ回答シタル處軍司令官ニ於テモ右
 命令ヲ發スル迄ノ決心ハナカリシモノノ如ク結局何四洮鐵路局長
 ヲ強制シ廿二日ノ鞍山守備隊及龍山野砲兵ノ鄭家屯出動トナリタ
 ル次第ナリト言フ右外部ニハ絶對極秘ニ御取計ヒヲ請フ

外務省

昭和6 一三三一四 暗 奉天 二十三日後發

幣原外務大臣 在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛 林總領事

第七一八號 奉天 昭和六年九月二十二日後發

鞍山守備隊及本月二十一日午后着奉セル朝鮮龍山野砲聯隊ノ前着部

ハ二十二日午前七時四平街ヨリ四洮鐵路局員ヲ強制シテ鄭家屯ニ

向ヘルカ既ニ到着セル筈ナリ及重傷者數ハ四、五百名ニシテ

長春ヨリ吉林へ、哈爾濱ヨリ齊々哈爾へ轉電アリタシ支、北平、

南京、ハ全、逃亡兵ノ片付ケ中ノ由

右部外務

支へ轉電セリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛 九月二十二日後發

奉天 昭和六年九月二十三日發
同 六年九月二十三日着

電信第七二〇號 (暗)

海龍發本官宛電報第六號
電信第七一九號 (暗、極秘)

小官吉林經由二十日午後歸任セリ

北大營ニ於ケル支那兵ノ死亡及重傷者數ハ約四、五百名ニシテ輕

傷者ハ全部逃亡セル由尙二十一日以來右死亡兵ノ片付ケ中ノ由

右部外秘

支ヘ轉電セリ目下ノ處置シキ不整ノ形勢ヲ見サルモ今後事件ノ

判明スルニ於テハ或ハ不測ノ禍ナキヲ保モスト思料シ僻地存留

ニ對シテハ自發的引揚ヲ避ルニ置ケリ

外務省

第...日當號...
 ノ推移在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛
 ハレタキ旨申入レ且當館管内奉天當昭和六年九月二十二日午後發
 ヨリ直接轉送セシメ置キタリ
 同 六年九月二十三日午前着
 電信第七二〇號(暗)
 海龍發本官宛電報第六號
 小官吉林經由二十日午後歸任セリ
 今回ノ事件ニ關シ當地方ニ於テハ事件直後ヨリ滿鐵沿線トノ電信電
 話杜絶ノ爲(當館ハ十八日午後附貴電ノミ接到)其後ノ模様承知ス
 ルモノナク僅ニ鐵道沿線各都市ニ於テ列車乗務員等ノ不確實ナル口
 傳ニ依リ事件ノ輪廓ヲ知り之ニ揣摩臆測ヲ加ヘ種々喧躁ヲ爲スモノ
 アルニ過キス目下ノ處甚シキ不穩ノ形勢ヲ見サルモ今後事件ノ真相
 判明スルニ於テハ或ハ不測ノ禍ナキヲ保セスト思料シ僻陬地在留民
 ニ對シテハ自發的引揚ヲ從速シ置ケリ

外務省

尙同日當縣長ヲ往訪シ先方ノ情報ヲ聽取スルト共ニ當方ヨリモ事件
 ノ推移ヲ適當ニ取捨説明シ在留邦人ノ保護方ニ關シ遺憾ナキ様取計
 ハレタキ旨申入レ且當館管内各縣當局ニ對シ亦同様保護方同縣長
 ヨリ直接轉達セシメ置キタリ
 同縣長ノ談ニ依レハ支那側ハ同日迄本件ニ關シ何等纏リタル情報ヲ
 入手シ居ラス僅ニ十九日夜奉天ヨリ勿惶歸任シタル東邊鎮守使ヨリ
 電話ヲ以テ斷片的ノ情報ヲ受ケタルニ過キササルモ鎮守使及縣長等ハ
 責任ヲ以テ我方在留民ノ保護ヲ爲スヘキ旨語レリ
 電信電話ハ目下當地ヨリ開原及通化間ハ三連汗居リ又鐵道ハ清源縣
 及吉林間一日一往復ヲ爲シ居ル同地ニ於テハ俄ニ我ノ輿駁說傳セ
 通化ニハ何等ノ情報精細モ無ク如ク事件ニ關シ照會アリタルニ付適
 當ニ同電ヲ置キタリ報ニ接シタル支那軍隊ハ之カ爲キナン方面ニ向
 不取敢却ヲ開始セリトノ情報アリ二十一日午後一時五十分頃又復五
 通化へ轉電セリ地方ニ飛來シ當館上空ニ於テ五ノ原文ノ儘一閱

外
 務
 省

第シ疑製號彈三箇ヲ投下シ北三城子方面ニ飛去セル處一彈ハ公安
 大隊後陸奉天林總領事官附幣原外務大臣宛ル者鮮カラス不穩ノ氣
 配アリト傳ハレルニ依リ目下極奉天戒昭和六年九月二十二日後發
 北三城子出張所ヨリノ報告ニ依レハ奉天同方亦年九月二十三日前着
 電信第七二二號ハ暗日清原ニ至リ二十二日北三城子ニ到着スヘシ
 海龍發本官宛電報止ノ爲同地武裝撤離會約一箇連二十一日清原ニ向
 第七號セル起テリ
 往電第六號ニ關シ

二十一日午前七時頃我軍飛行機一臺北三城子上空ニ現ハレ二回旋
 空ノ後奉天方面ニ飛去セル爲同地ニ於テハ俄ニ我ノ襲撃說喧傳セ
 ラレ一般支那人ノ感情稍軟化ノ微アリシ趣ナリシカ朝陽鎮ニ於テ
 ハ右飛行機飛來ノ報ニ接シタル支那軍隊ハ之カ爲キナン方面ニ向
 ヒ退却ヲ開始セリトノ情報アリ二十一日午後一時五十分頃又復五
 十一號機一臺當地方ニ飛來シ當館上空ニ於テ五(原文ノ儘)回旋

外務省

回シ疑製爆彈三箇ヲ投下シ北三城子方面ニ飛去セル處一彈ハ公安
 大隊後庭ニ落下シタル爲同隊員中興奮シ居ル者鮮カラス不穩ノ氣
 配アリ在奉天林總領事署依リ目下極力警戒中
 北三城子出張所ヨリノ報告ニ依レハ奉天方面ヨリ戰鬪力ヲ失ヘル
 多數ノ支那兵二十一日清原ニ至リ二十二日北三城子ニ到着スヘシ
 トノ噂アリ之カ阻止ノ爲同地武裝鐵警約一箇連二十一日清原ニ向
 テ出發セル趣ナリ

往北三城子

實地及當地間ノ電報聯絡ニ關シ二十日來當地支那側ト折衝中ノ處
 本二十一日ニ至リ當地ト開原間支那局及開官支那局ト同地我方
 便局經由實地トノ往復可能トナレルニ付（本件通譯ハ支那電報局
 ヨリ我方電報局ニ設解済ノ趣ナルニ付）本件通譯ハ古ハ當館
 實ニ供スル見地ニ出テタルモノニ付（電報對支那側ノ
 一原文不明）ニサ可ナルニ付日本側ニ於テ之ヲ通譯スルニ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月二十二日後發

同 六年九月二十三日前者

電信第七二二號（暗）

海龍發本官宛電報第八號

往電第七號ニ關シ

貴地及當地間ノ電報聯絡ニ關シ二十日來當地支那側ト折衝中ノ處
本二十一日ニ至リ當地ト開原間支那局及開原支那局ト同地我方郵
便局經由貴地トノ往復可能トナレルニ付（本件連絡ハ支那電報局
ヨリ我方電報局ニ諒解濟ノ趣ナルモ然ラサル場合ハ右ハ當館ノ便
宜ニ供スル見地ニ出テタルモノナルニ付支那側對支那側ノモノハ
（原文ノ儘）ニテ可ナル次第ニ付日本側ニ於テ之ヲ承諾スル様致
シタク拙電未着ノ場合ハ十八日午後發貴電以下、、、（一語不

明一再電アリタシ尙五一號飛行機カ擬製爆彈ヲ投下シタル原因ハ
目撃者ノ談ニ依レハ同日夜當館上空旋回當時支那騎馬兵カ發砲シ
タル爲之ニ應射シタルモノノ如シ
有在ニ妙會キヤ

昭和6 一三二八七 暗

奉天 二十二日後發
本省 九月二十三日 前着 亞

幣原外務大臣

林 總領事

第七二四號

二十二日午後五時頃軍司令部ヨリ滿鐵總裁宛大要左ノ通指令アリ
タリ

滿鐵隣接支那鐵道利用方ニ關シ準備セラレタシ尙東支南線、四洮
線管理ノ必要アルヘキニ付此點ヲモ考慮ニ入レ準備セラレタシ
支、南京、北平へ轉電セリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月二十三日後發

同 六年九月二十四日前着

電信第七二五號（暗）

本官發安東宛電報

第二八號

貴電合第四六號ニ關シ

當地方ノ經濟界安定問題ニ關シテハ軍側ニ於テ日華双方ノ銀行業
者ヲ招キ二十一日來兩度ノ協議會ヲ開ク等折角盡力中ナルカ中國
交通兩銀行ハ兎ニ角東三省官銀號及邊業銀行ハ學良及東北政府ノ
權勢ニ依リ其ノ信用ハ維持セラレ多數ノ不換紙幣ヲ流通セシメ居
ルモノナルカ爲學良等ノ實力ノ除去セラレタル當地方ニ右兩銀行
カ假令開業スルモ其紙幣ニ一定ノ市價ヲ維持セシムル爲ニハ相當

外務省

多大ノ資金ヲ要スル事情モアルヘク旁市内中國側銀行開業ハ未タ
見込立タサル譯合ナリ
大臣、公使、在滿各領事、北平、天津、南京へ轉電セリ

昭和6 一三四六六 暗

奉天 本省

九月二十四日前着

亞

幣原外務大臣

林總領事

第七二六號

往電第六六八號ニ關シ

六百名ノ自衛團ハ二十二日午後ニ至リ突然食糧缺乏給料不渡等ヲ理由トシテ同盟罷業ヲナシ自衛警察局長李毅（瀋陽縣長）モ亦病氣辭職シタルヲ以テ我憲兵當局ニ於テハ早速瀋陽市商會役員馮形異ヲ後任局長ニ任命シ食糧ハ即時糧秣廠ヲ沒收シテ供給スル外給料ハ追テ適當ノ方法ヲ講シ支給方保證ヲ與フル條件ヲ以テ新ニ自衛團巡警ヲ募集セシメツツアルモ只今迄ノ處應募者ナシ

在支公使、南京、天津、吉林、長春、北平、牛莊、安東ニ轉電セリ

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月二十三日發

同 六年九月二十四日前着

電信第七二八號（暗）

當館ト海龍間ノ電信ハ開原ニ於ケル支那局及日本局ヲ通シテ可能
ナリシカ廿二日開原海龍間支那電信切斷セラレ同經路ニ依ル通信
不能トナレリ應急方法考究中

外務省

IPS doc 2194-Y

昭和6 一三四四三 暗

奉天 本省

九月二十三日後發
二十四日前着

幣原外務大臣

林總領事

第七二九號（極秘）

北平發閣下宛電報第四二一號前段ニ關シ

歐洲大戰ノ經驗ニ依リ步兵操縦ノ大砲ヲ必要トシタル爲奉天駐在
ノ我軍ニハ今春來歩兵砲（山砲）數門ヲ備ヘ付ケ居リ尙此外軍側
ニテハ極秘ニシ居ルモ事件突發前當地ニハ輸送練習ノ爲ナルヤニ
テ持來レル二四「サンチ」重砲四門到着シ居タリ（部外秘）

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月二十三日發

同 六年九月二十三日後着

電信第七三〇號（暗）

一 當地中國側金融ニ付テハ臨時市政公署ニ於テ日本側各銀行支店
長ヲ招集意見ヲ聽取セルモ決定ニ至ラサル爲未タ開店セス
二 商店ハ未タ大部分ハ開店セス食糧其他日用品ノ供給行ハレス市
民ノ多數飲食物ハ缺乏シ工場、學校等多人數ヲ用スル場所ハ困難
殊ニ甚シク何時不穩ノ舉動ニ出ツルヤモ圖ラレス兵工廠ニ於テハ
倉庫ニ保管中ノ白米等ヲ分配シ居ルモ今後ノ支給ニ不安アリ市中
弗々食糧掠奪等アリ
三 右ノ事情等ニ依リ人心未タ安定セサル爲市民ノ他地方ニ避難ス
ルモノ皇姑屯方面ニ殺到シ居レリ
支、北平、南京、在滿洲各領事へ轉電セリ

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月二十三日發

同 六年九月二十四日前着

電信第七三一號（暗）

一 奉天ノ市政實施上必要已ムヲ得サル費用ニ充當セシムル爲臨機其資金ヲ市長ニ交付ス

二 右資金ハ軍ノ押收セル官銀號ノ現大洋票及奉天洋票ヲ以テ之ニ充ツ

三 各銀號ノ營業ハ依然之ヲ停止ス

但シ中國及交通兩銀行ハ檢査ノ後速ニ開業セシム

四 現大洋並金銀塊ノ奉天市外搬出ヲ嚴禁ス

五 細部ニ付テハ軍係リヲシテ指圖セシム

六 北平、南京へ轉電セリ

昭和6 一三四四四 暗

奉天 本省

廿三日後發
九月廿四日前着

幣原外務大臣

林總領事

第七三二號

關東軍司令官ハ廿三日午前十一時關東軍命令別電第七三一號ノ通
發令シ右本官ニ通知アリタリ
支、北平、南京へ轉電セリ

外務省

昭和6 一三四〇一 暗

奉天 本省

九月廿三日後發

幣原外務大臣

林總領事

第七三三號

往電第七一二號ニ關シ

步兵七十七聯隊ノ約一個大隊砲兵二十六聯隊ノ一個中隊（野砲二門）及滿鐵從業員約五十名ハ廿三日午後二時三十分滿鐵ノ特別編成列車ニ搭乘當地ヨリ北寧線ニ入り新民府方面ニ出發セリ
支、北平、南京、在滿洲各領事へ轉電セリ

外務省

昭和6 一三四六二 暗

奉天
本省

九月廿四日前着

幣原外務大臣

林總領事

第七三五號

新民屯ニ向ヒタル軍用車ハ午後五時四十五分巨流河ニ達シ同地ヨ
リハ歩兵一小隊装甲車ニ搭乘シテ新民府ニ向ヒ午後六時新民府在
留邦人及支那側ノ出迎ヲ受ケ極メテ平穩裡ニ入市セリ同地ニハ中
國側軍隊ヲ見ス公安局ハ任意巡警ノ武器ヲ提供スル旨ヲ申出テ居
ル旨新民府ヨリ皇姑屯驛迄電話通報アリタル趣ナリ
支、天津、青島、南京、北平へ轉電セリ

外務省

昭和6 一三四六三

暗

奉天
本省

九月廿四日前着
廿三日後發

亞

幣原外務大臣

第七三六號

往電第七一二號ニ關シ

步兵七十八聯隊ノ一個大隊騎兵第二十八聯隊ノ百二十騎及野砲二十六聯隊ノ一個中隊ハ二十三日午前四時半當地發四平街經由鄭家屯ニ向ヘリ
支、北平、吉林、齊々哈爾、南京、長春、牛莊、哈爾濱へ轉電セ
リ

外務省

昭和6 一三四〇二 暗

奉天 本省

九月廿三日後着

幣原外務大臣

林總領事

第七三七號ノ一 (極秘)

今回ノ事件ニ關シ政府ノ方針ハ事態ヲ出來ル丈ケ擴大セシメス不
 必要ナル進出等ヲ嚴ニ避クルニアル次第ハ貴電第一九九號及第二
 ○〇號ニ依リ承知シ本官ハ右ノ趣旨ヲ以テ出來ル丈ケ軍部ト折衝
 シ政府方針ノ貫徹ニ努力シツツアルモ其後ノ軍ノ行動ハ卑見ヲ以
 テスレハ一々政府ノ方針ヲ裏切ルモノノ如ク思考セラレ特ニ滿鐵
 沿線以外ノ地ニ對スル軍事行動ト雖モ何レモ本官ニ何等通知ヲ爲
 サスシテ實行セラレ軍司令官トノ數次ノ會見ニ於テ本官カ諸般ノ
 件ニ關シ政府方針ニ從ヒ懇切ナル注意ヲ與ヘタル際ハ体裁ヨク應
 答シ乍ラ事實ニ於テ着六軍事行動ヲ擴大シ居リ特ニ一兩日來司令
 部ハ當館ニ對シ出來ル丈情報ヲ傳フルコトヲ避ケントスルカ如キ

外 務 省

態度ヲ示シ來レリ本官ハ館員ニ對シ政府ノ根本方針ニ關スルモノ
ハ之ヲ別トシ末梢ノ軍關係ノ行動例ヘハ奉天省城ノ治安維持或ハ
市政回復ノ如キ件ニ關シテハ誠意ヲ以テ之ヲ援助スル様訓令シ且
努力セシメ居ル次第ナルモ（續ク）

昭和6 一三四〇四 暗

奉天 本省

九月廿三日後着

幣原外務大臣

林總領事

第七三七號ノ二(極秘)

司令部幕僚ハ當館ノ行動ニ對シ鮮カラス猜疑ノ眼ヲ以テ見ツツアルカ如ク之カ爲不幸ニシテ此ノ國難時ニ際シ當地軍部トノ關係ハ之ヲ圓滿ナラシムル事頗ル困難ナル事情ニ在リ
翻テ思フニ現在ノ事態ハ累次電報ノ如ク我國ニ執リテ最極度ノ重大性ヲ帶ヒ來リ然モ尙日増ニ惡化シツツアリ之ヲ防クカ爲ニハ政府ニ於テ萬遺漏ナキ御處置ヲ執ラルト同時ニ出先タル當館ニ於テモ全力ヲ舉ケテ事態ノ惡化ヲ阻止スルニ努メツツアルモ不幸ニシテ本官ノ微力ヲ以テシテハ如何トモスヘカラサル状態トナリ將ニ唯傍觀ノ已ムナキニ立至ラントス本官ハ唯此ノ際中央ニ於テ政府力軍部ヲ充分ニ御戒筋ノ上彼等ノ行動ヲ速ニ軌道ノ上ニ復歸セ

外務省

シメラレン事ヲ切望シテ已マス（部外絶對極祕ヲ希望ス）
支へ轉電セリ

外
務
省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月二十三日發
同 六年九月二十四日前着

電信第七三八號（暗）

新市政公所關係邦人ノ來報ニ依レハ當地ノ治安ニ關シテハ商務會
カ軍部ノ意嚮ニ從ヒ地方警備ノ爲自警團ノ召集其他ノ斡旋ヲナス
コトヲ承諾シ先ツ軍側押收ノ糧秣廠貯藏ノ雜穀ヲ貧民ノ救助竝ニ
廉賣ニ宛テ且銀號ノ經營セル糧棧ノ貯藏雜穀ヲモ一般物價ノ騰貴
ヲ抑制スル方法トシテ販賣スルコトニ決定シ目下其準備ニ着手シ
居ル趣ナリ
在支公使、南京、北平、天津、青島、在滿各領事ニ轉電セリ

外 務 省

昭和6 一三五三二 暗

奉天

九月二十四日後發

亞

幣原外務大臣

林總領事

第七四一號（至急、極秘）

廿四日朝軍司令官ハ本官ニ對シ吉林派遣ノ軍隊ハ同地モ平靜ニ歸シタルヲ以テ一個聯隊ヲ止メ他ハ全部長春迄引返ヘラシムルコトトスヘク敦化ニ赴キタルモノモ既ニ引返ラシメタリ鄭家屯ニ赴キタル軍隊中通遼ノ治安維持機關逃亡ノ故ヲ以テ一部同地ニ赴キタルモノアリシモ右ハ同地在留民ヲ帶同シテ鄭家屯ヘ引返ヘセリ哈爾賓特務機關ヨリノ報道ニ依レハ同地ハ非常ニ人心動搖シ居リ總領事ハ廿一日午後七時出兵方政府ニ要請セリトアル處當地總領事館ニモ右ノ電報アリタルヤト尋ネ寬城子以北ノ出兵ハ之ヲ許ササル旨陸軍大臣ヨリノ電訓モアリ司令官トシテハ兩者間ニ狹マレ目下苦境ニ立テ居レリト述ヘタリ依テ本官ハ哈爾賓總領事ヨリハ

外務省

未タ御尋ネノ如キ電報ニ接セス（同總領事發閣下宛電報第二一八號ハ本官歸館後始メテ接讀セリ）同總領事ハ僅カニ廿三日午前歸任セルノミナルヲ以テ果シテ同地ノ事態ヲ見極メタリヤ明カナラス本官ハ頻リニ同總領事ノ詳細ナル情報ヲ待チ居ル次第ナリ依テ貴司令官ニ於テモ政府ノ指令ヲ待タルル方可ナラント述ヘ置キタリ

支、北平、南京、天津、長春、吉林、哈爾濱、齊齊哈爾へ轉電セ

昭和6 一三六三二 平

奉天 廿四日後發
本省 九月廿五日前着

亞

幣原外務大臣

林總領事

第七四三號

廿四日鐵道爆破現場ニ於テ在奉天内外新聞通信記者及外國武官ニ對シ島本守備隊長ヨリ爆破當時ノ狀況ニ對シ左ノ如ク説明セリ
九月十八日午後十時半虎石臺守備隊川本中尉以下七名（二隊ニ分レ同中尉ハ兵二名ヲ引率後行ス）線路巡察演習中事故發生ノ地點ヲ通過南行シ約五百米ノ地點ニ達セシトキ突如爆音ヲ聞キタルヲ以テ直チニ引返シ偵察シタルニ數名ノ中國兵士カ北大營方面ニ逃出シ居ルヲ發見シ追跡シタルニ附近ノ地物ヲ利用セル伏兵ヨリ射撃ヲ受ケタルヲ以テ之ニ應戰擊退シタルモ北大營南ノ高粱畠中ヨリ四五百名ノ中國兵前進シ猛烈ナル射撃ヲ爲シタルヲ以テ演習指揮中ノ川島中隊長ニ報告シ同中隊長ハ百二十名ノ兵ヲ舉ケテ應戰

外務省

中國兵ヲ追撃北大營ノ一廓ヲ占領セリ
公使、北平、南京、天津、廣東へ轉電セリ

外
務
省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月二十四日後發
同 六年九月二十五日前着

電信第七四四號（暗）

佛國領事ヨリ二十日附公文ヲ以テ東北陸軍航空隊ニハ佛國ノ所有
ノ飛行機三臺アルニ付右事實ヲ本官ヨリ日本軍司令官ニ通告シ司
令官ヨリ必要ノ指令ヲ發セラルル様取計ヒアリ度キ旨申越シタル
カ其後英國總領事ハ飛行機三臺飛行機材料、吉敦鐵路用材料等ニ
付又米國總領事ハ在安東「スタンダード」石油會社倉庫ニ關シ何
レモ同様ノ公文ヲ送付シ來リ又獨逸領事モ二十四日附公文ヲ以テ
東北無電臺ハ代金未拂ニ付其所有權ハ尙獨逸人ニ存スル處今次事
件ノ爲右電臺内器物ニシテ盜難ニ係リタルモノアルニ付右保護方
措置アリタキ旨申越シアリ其他利害關係人ニシテ各自國領事ノ紹

介狀等ヲ持參シ同様ノ申出ヲナス旨今日迄二十數件アリ（例へハ
万国寢臺會社ヨリ東北大學工廠ニテ修理中ノ同社一等寢臺車七輛
保護方申出テ同社所有ノ材料多數二十二日朝日本國旗ヲ掲ケタル
自動車ニ依リ持去ラレタリトノ苦情「チエツコスロバキヤ」一シ
ユコダ」會社代表者ヨリ東三省官銀號ニアル預金引出不能ノ苦情
等）右ニ付テハ夫々軍側ノ注意喚起方ニカメ居ルモ此ノ種ノ苦情
ハ今後更ニ増加ノ傾向アリ爲念
支、南京、天津、北平へ轉電セリ

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月二十四日後發
同 六年九月二十五日前着

電信第七四五號（暗）

滿鐵「キニ」來訪ノ際時局以來外人方面トノ接觸ニ依リ得タル
印象ニ依レハ此際機ヲ逸セス日本政府ニ於テ滿蒙ニ對シ何等領土
的野^心ナキ旨ノ聲明ヲ爲サルルコト機宜ニ適スト思考スル旨内話
セリ

北平、南京、支へ轉電セリ

外務省

昭和6 一三五九九 暗

奉天
本省

九月二十四日後發

幣原外務大臣

林總領事

第七四七號ノ一（極祕）

貴電合第五九四號ニ關シ

第二項以下左ノ通第一項追電ス

(二)軍ニ於テハ地方治安維持ノ爲本邦人及外支人ノ行動ニ對シテハ
附屬地内ニ於テハ何等ノ干涉ヲ加ヘサルモ事件發生直後附屬地境
界線ノ各通行路ニ鐵條網、土囊等ノ防禦設備ヲナスト共ニ武裝兵
ヲ派シ通行者ニ對シ嚴重ナル査問ヲ行ヒ特ニ外支人ニ對シテハ特
別ノ身分證明アル者ノ外ハ一切通行ヲ禁止シタルカ二十一日ヨリ
右監視兵ヲ廢シ單ニ我警察官ヲ配置シテ容疑者ニ對シテノミ査問
又ハ身体竝ニ所持品ノ検査ヲ行ヒツツアリ
商埠地及城内ニ於テハ軍ノ占領後引續キ各城内ニ武裝監視兵ヲ配

外務省

シ容疑者ニ對シ査問又ハ身体及携帶品ノ検査ヲナシツツアリ
北寧鐵路方面ニハ皇姑屯驛ニ下車シ城内方面ニ向フ者ニ對シ我武
裝兵ニ於テ必要ニ應シ査問又ハ身体検査ヲナシ居レリ

外
務
省

昭和6 一三五九八 暗

奉天
本省

九月二十五日前着
二十四日後發

幣原外務大臣

林總領事

第七四七號ノ二（極祕）

(三)交通ニ關シテ(二)ノ外十九日北寧鐵道ヲ皇姑屯ニ於テ遮斷セリ通信ニ關シテハ有線ハ各方面トモ我軍ニ於テ電線ヲ切斷シ無線ハ破壞又ハ使用ヲ禁止シ郵便ハ占領當時一日位業務停止セラレタルモ直ニ恢復セリ

金融ニ付テハ官銀號ノ外邊業中國、交通各銀行等我軍ニ於テ一占領ナル貼符ヲ爲シ引續キ業務停止中ナルカ善後策ニ關シテハ往電第七三一號ノ通

(四)軍ノ地方行政類似ノ行爲及狀況ハ支那側ノ行政機關ハ全部其機能停止ノ爲往電第六七七號ノ通我軍監督ノ下ニ日支人ヲシテ臨時市政ノ運用ヲ爲スコトトシ特ニ治安維持ニ關シ廿一日自衛團ヲ組

織シタルカ廿三日右罷業ノ結果今回改メテ支那商務會ヲシテ我憲
兵隊監督指導ノ下ニ同様ノ機關ヲ組織セシムルコトトナリ廿四日
ヨリ實施ノ筈右ニ付テハ委細郵報ス

(五)日本軍ノ徵發徵稅類似行爲ハ往電第七三二號ノ通關東軍令ヲ以
テ支那銀行在庫金ヲ市政費ニ流用スルコトト決シタル外廿三日糧
棧貯藏ノ食糧ヲ沒收セリ
支へ轉電セリ

昭和6 一三六六三 略

奉天

九月廿五日前着

幣原外務大臣

林總領事

第七五〇號

廿四日迄ノ一般狀況左ノ通

一市内ノ治安維持ニ關シテハ軍側ニ於テ中國商會ノ斡旋ニ依リ前
商會長馮景異ヲ自衛局長ニ任命シ且巡警ニハ食糧及俸給確實支給
方約束シ安心セシメタル結果廿四日朝ヨリ約九百名出勤ノコトト
爲シタルカ明日ヨリ右ノ外商團ヨリノ千名ノ警備員出勤ノ筈ニテ
袁金鎧・干沖漢・李友蘭・闕朝璽等八名ノ發起ノ下ニ治安維持及
金融回復等ノ爲委員會組織ノ筈又既電ノ穀類ノ廉賣及無料支給方
計畫中ニテ他方商店ニ對シ開店方勸メタル爲漸次秩序回復ノ途ニ
アリ

ニ右ノ結果内城及内城ヨリ附屬地ニ通スル方面ハ廿四日朝ヨリ目

拔ノ場所ハ五割内外開店シ通行人モ前日ニ比シ相當増加シタルカ
三右區域外ノ内城東南北ノ三門外一帶ハ廿二・三兩日ノ自警團怠
業ト糧食缺乏等ノ影響モアリ白晝ニ於テスラ集團的掠奪等行ハレ
治安未タ全カラス同區域ニ於テハ(二)ノ地域ト異リ廿四日モ僅ニ飲
食店等少數ノ營業アルノミ
四滿鐵線ニ依ル避難者ハ最近一日二千餘ニ上リ皇姑屯驛ヨリノ避
難者多數ニシテ汽車ノ輸送力間ニ合ハサル實情ナリ
支・南京・北平・在滿各領事・天津・青島へ轉電セリ

昭和6 一三五五一 暗

奉天
本省

九月二十四日後發

幣原外務大臣

林總領事

第七五一號（大至急）

關東長官宛貴電第六四號ニ關シ
早速同廳警務局ト電話ニテ豫メ協議シタル處同廳ニテハ既ニ沿線
諸地方へ應援派遣中ニテ其後吉林、營口等ヨリノ要求ニモ應シ兼
ネ居ル實情ニテ餘力全然無キ趣ナルニ付テハ萬一ノ場合ヲ顧慮シ
朝鮮ヨリ派遣方豫メ拓務省及朝鮮總督府ト御協議ノ上結果哈爾賓
並當方へ至急御回電請フ
關東廳、哈爾賓へ轉電セリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月廿五日後發

同 六年九月廿五日後着

電信第七五三號（暗）

三井大村ト同行セル上海中國銀行經理張公權二十四日當館ニ來訪
一時間餘懇談セル處張ハ今回ノ事件ヲ南方ニ波及セシメス出來得
ル丈早ク解決セシムル方法ニ關シ本官ノ意見ヲ尋ネタルニ依リ本
官ハ單ニ私見トシテ數日前宋子文ヨリ重光公使ニ申出テアリ夫ニ
對シ同公使ヨリ日本側ノ回答ヲ與ヘタルニ宋ハ右談話ノ繼續ヲ中
止セリ日本側回答ノ要旨ハ滿蒙ニ於ケル日支ノ關係ヲ此ノ際根本
的ニ調査解決セシムル委員會ノ設立ニアリテ日支兩國ノ國交ヲ顧
念スル以上最モ必要ナル處置ト考ヘラルルニ付支那側ニ於テモ感
情ニ馳ルヲ避ケ冷靜ニ本件ノ交渉處理ニ當ル様希望ニ堪ヘスト語

外 務 省

リ聞カセタルニ張ハ本官所説ノ趣旨ニハ大体ニ於テ共鳴シ其精神
ニ依リ事ヲ運フ様上海方面貴官友人ニ電報スル積リナルモ右ノ如
キ交渉ヲ開始スルニ先タチ日本軍ヲシテ先ツ吉林鄭家屯等ノ各占
領地帯ヨリ撤退セシムルコト能ハサルヤト尋ネタルヲ以テ右ハ居
留民保護ノ爲ニ出兵セシメタルモノナルニ依リ何等カノ完全ナル
保障アレハ不可能ニ非スト考ヘラルルモ本件ノ解決ハ全般的ニ考
慮スルヲ必要トシ部分的ノ問題ヲ避クル方可ナルヘシ尙我方政府
ハ現状以上ニ軍事行動ヲ擴大スルカ如キコトナキ様軍ニ對シ命令
シアアルヲ以テ其點ハ安心シテ可ナル旨語り置ケリ御參考迄
支、南京、北平ニ轉電セリ

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月二十六日前着

電信第七五五號（暗）

二十五日當地大倉組村岡支店長來訪シ通遼西方（約十七邦里）大倉組華興公司農場ノ婦人小供十名男子二名附添ヒ農場自警團員（中國人）約七名ヲ同伴通遼ヘ引揚ノ途中二十三日土匪ニ襲ハレ防戦セルモ衆寡敵セス全部捕ヘラレタルニ依リ華興公司ヨリ更ニ自警團員ヲ派遣シ土匪ト交渉ノ結果前記附添男子ノ内滿鐵社員坪井清ヲ人質トシテ殘シ他ハ全部農場ヘ引返シタリ坪井引取方ニ付テハ大倉組ニ於テ更ニ馬賊ト交渉スヘキモ農場ニハ約三十名ノ邦人アルニ付二十四日夜軍司令部石原參謀ニ對シ軍ノ應援ノ下ニ右邦人引揚方實行シ度キ旨願出タルニ同參謀ハ總領事ヨリ軍司令官宛居

外務省

留民保護ノ爲出兵方申出アルニ於テハ騎兵隊ヲ派遣スルコトトス
ヘシト答ヘタルニ就テハ右様御取計ヲ得タシト申出テタリ右ニ對
シ本官ヨリハ本件ハ農場ヨリ引揚ノ途中馬賊ニ遭ヒタリト云フニ
在リ又御話ノ次第ヲ綜合スルニ農場所在地ノ情勢カ果シテ急迫セ
リヤ否ヤ明カナラサルノミナラス同(地)ノ如キ地へノ出兵ハ
政府ノ方針モアリ本官トシテ之ヲ請求ヲナスヲ得ス本件ニ關シテ
ハ(1)人質ハ大倉組ニ於テ之カ救出方馬賊ト交渉シ又(2)農場従業員
及家族保護ニ關シテハ今暫ク事態ヲ見極ムルコト然ルヘシト申聽
ケ置キタリ

鄭家屯、長春、鐵嶺、支、南京、北平へ轉電セリ

昭和6 二三七三八

暗

奉天

九月廿五日後發

本省

廿六日前着

亞

幣原外務大臣

第七五七號（大至急極秘）

往電第七四七號に關し

第一項左の通

林總領事

(イ) 占據區域は瀋陽支第一區乃至第七區及商埠地の殆ど全（部）に亘り居れり（九月十九日附第七四六號往信送付の地圖參照）

(ロ) 占據せる官署其他並占據人員等に付ては大體九月二十二日附機密第六四七號の通なるも右の外東大營、學良北陵別莊、大元帥府、軍公署、衛戍司令部、無線電信臺、湧玉麟公館、憲兵第二中隊、航空司令部、憲兵第一司令部、糧秣廠、被服廠、二四師旅司令部、汲金純公館、張作相公館、放送局、糧秣廠倉庫、市政公署、電報局、電信管理局、交通委員會、東北鑛粉局等あり

外務省

(ハ)尚以上各所は(一)軍に於てニ應占據せるも武器の押收等を爲した
る後其儘放置せるもの(二)軍に日本軍占領なる貼札を爲したるも
の(三)數名の歩哨又は部隊に依り事實占據し居るもの等區別ある
も右は日に依り變化あり
支へ轉電せり

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月二十五日後發

同 六年九月二十六日前着

電信第七五九號（暗）

北寧鐵道運輸主任「スチール」ノ談トシテ「ゾルマン」カ内報スル
處ニ依レハ二十四日午前十一時皇姑屯ノ南方二驛ヲ距ル地域ニ於テ
日本側飛行機カ運行中ノ列車ニ投下セル爆彈ニ依リ支那人二名負傷
セリト尙「ス」ハ同列車ノ車掌ヨリ右話ヲ聞キタルモノノ由眞否未
タ判明セサルモ不取敢
支、北平へ轉電セリ

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月二十五日後發

同 六年九月二十六日前着

電信第七六三號（暗、極秘）

本庄軍司令官ハ二十五日當地日本側銀行ニ對シ我軍ハ遼寧、吉林兩
 政府軍ト交戰狀態ニ陥リタルニ付テハ東三省官銀號、吉林、營口官
 銀錢號及之等ノ附屬營業機關ニ屬スル資金ト認ムヘキモノ例ヘハ邊
 業銀行名又ハ張學良其他ノ名義ヲ以テセルモノノ預金ニシテ既報在
 滿各支店ニ現存スルモノハ貴方限リノ處分スルコトナキ様心得ラレ
 タキ旨書面通知シタル趣ナリ尙他ノ中外銀行ニモ右様通告ヲ發シタ
 ルヤハ未タ詳カニセス

本電當地當業者ノ立場モアリ部外ヘハ極秘御取扱ヲ請フ

支、在滿各領事ヘ轉電セリ

昭和6 一三七三九 暗

奉天 本省

九月廿六日前着

亞

幣原外務大臣

林總領事

第七六四號（至急、極秘）
往電第七四七號ニ關シ
撫順地方ノ分左ノ通

(一) 占據セル區域ハ大体ニ炭坑區域（未買收地タル千金中國行政區域ヲ含ム）ト附近ノ部落ニ亘リ此區間ノ縣公署公安局及公安分局等ノ武器ハ全部押收セリ

(二) 軍側ハ占據區域内ノ交通要路五個所ニ檢問處ヲ設ケ武器携帶者等不穩分子ノ潜在ヲ排除シ我警察ト協助シ地方ノ治安ニ當リツツアリ

(三) 交通ニ關シテハ前項(二)ノ檢問以外ハ別ニ何等ノ措置ヲ執リ居ラス金融其他ニ付テモ何等干涉ヲ加ヘタル報告ニ接シ居ラス

外務省

(四) 行政ニ關シテハ縣長及公安局關係者ハ占據區域内ニ於テハ全ク機能ヲ停止シ居レリ
(五) 徵發其他ニ關シ何等報告ナシ
支ヘ轉電セリ

外
務
省

昭和6 一三七九八 暗

奉天 本省

廿五日發
九月廿六日前着

亞

幣原外務大臣

林總領事

第七六五號（極秘）

往電第七三七號中言及ノ事情ニ依リ軍ノ行動ニ關スル情報ハ最近
滿鐵側ヨリ内密入手シ居リタル處廿五日以來軍ハ軍機ノ秘密ハ領
事館ト雖之ヲ洩スヘカラスト命シ滿鐵側ニ壓迫ヲ加ヘ當館ヘノ情
報供給ヲ阻止スルニ至レリ（部外絶對極秘）

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月廿五日後發

同 六年九月廿六日前着

電信第七六七號（暗）

昭和三年秋呼倫貝爾獨立ヲ計リテ失敗セル蒙古青年黨首領郭同南
廿四日當館ニ來訪シ今回ノ事變ヲ機トシ再ヒ同地方ノ自治ヲ圖ル
爲青年團ノ出迎アリ之カ爲自分ハ廿五日當地出發歸郷スル處自分
ハ必スシモ獨立ヲ欲スルモノニアラサルモ現在ノ國民政府ハ表面
奉スル所ノ三民主義ヲ事實上我等蒙古人ニ許ササル爲之二對シ自
治ヲ計ラントスルモノナリ此計畫ニ對シ自分ハ日本ヨリ何等具體
的援助ヲ受ケントスルモノニアラサルモ同情ヲ賜ハラントコトヲ希
望スルモノナリ云々ト語レリ

哈爾賓ヨリ齊々哈爾、滿洲里ニ轉電アリ

外 務 省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月廿五日後發

同 六年九月廿六日前着

電信第七六八號（暗）

新民府發本官宛電報

第七號

外務大臣、天津、牛莊へ轉電アリタシ

（電話報告）

時局以來管内奧地在留民新民縣二、黑山縣一、フシン縣二八ヲ保護方ニ付夫々所轄縣長ニ對シ折衝中ノ處フシン縣ハ引揚ケ時期ヲ失シタル觀アルヲ以テ現地支那官憲ニ對シ專ラ保護方折衝中、黑山ハ消息不明新民ハ一名避難シ來ル當地ヨリ東北方約九十支里（鐵嶺管下）藍旗堡居住德弘貢（原籍高知縣）二十三日砲兵約三百

外 省

ノ敗殘兵ノ爲ニ慘殺セララル

昭 三ノ六 暗

奉天

廿五日後發

亞

尙錦州在住民ヨリ救出ノ願出テ電報往復中央處黨方面ニ避難シ

來ル旨唯今實報ニ接セリ

林 綱 海 軍

鐵嶺へ暗送セ(機秘)

廿五日軍司令官ハ本官ニ強シ投擲以テ之志願シムヲ得ルル場
合ノ外ハ出兵相成リ候トノ作テナリシニ處テ昨日午後本報機密ヨ
リ改メテ輪傳軍方面へノ出兵ハ如何ナルニ決アルトモナリ候
ル旨鐵嶺司令官等ケタル管内話シタリ
又、北平、北京へ電報セリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月二十六日前發

同 六年九月二十六日前着

電信第七七號(平)

錦州在住邦人全部四十四名(我警察官一名共)ハ北寧線普通列車ニ搭乘皇姑屯驛下車二十六日午前零時五十分無事當地ニ避難シ來レルカ錦州及途中共幸格別ノ事故ニ遭遇セサリシ趣ナリ
在支公使、天津、牛莊、關東長官へ轉電セリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月廿六日後發

同 六年九月廿六日後着

電信第七七二號（暗）

往電第七五九號

我軍飛行機ノ北寧線列車ニ爆彈投下ノ件ハ其後ノ報道ニ依レハ廿
二日我軍巨流河方面出動前逃亡敗兵ヲ目的トセルモノナル由
支、北平ニ轉電セリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月二十六日後發
同 六年九月二十六日後着

電信第七七四號（暗）

海龍分館ヨリ當館ト聯絡ノ爲警官二名二十六日來奉セル處（奉海
線不通ノ爲梅河口、西安、掏鹿、開原經由）海龍地方ノ狀況ニ關
シ語レル處左ノ通

一 海龍在留民ハ領事分館ニ、朝陽鎮在留民ハ夫々警察出張所ニ集
合シ居リ山城子ニ於テハ支那側ヨリ邦人各戸毎ニ巡警ヲ派シ居
レリ又柳河、輝南、様子哨ニ對シテハ電話ニテ沿線又ハ分館ニ
集合方命令濟ナリ

二 二十四日通化ヨリ海龍宛ノ通報ニ依レハ同地方現在ノ處別狀ナ
シ

外務省